

# 久留米市地場企業景況調査レポート(平成28年4月～6月期調査分)

## <調査目的>

久留米市内地場企業の景況及び経営動向を把握し、今後の経営改善普及事業に資するとともに、これら情報の集計結果を事業所へ提供し、経営に活用していただく。

## <調査対象>

当所会員事業所を対象とし、建設業・製造業・卸売業・小売業・サービス業それぞれ120社づつ、計600社を任意抽出して実施。

## <調査要領>

四半期ごとに調査用紙を郵送し、前年同月比や来期の予測について回答を求める。調査の集計は日商中小企業景況調査の集計方法に基づいた景気判断指数(DI値)で行う。

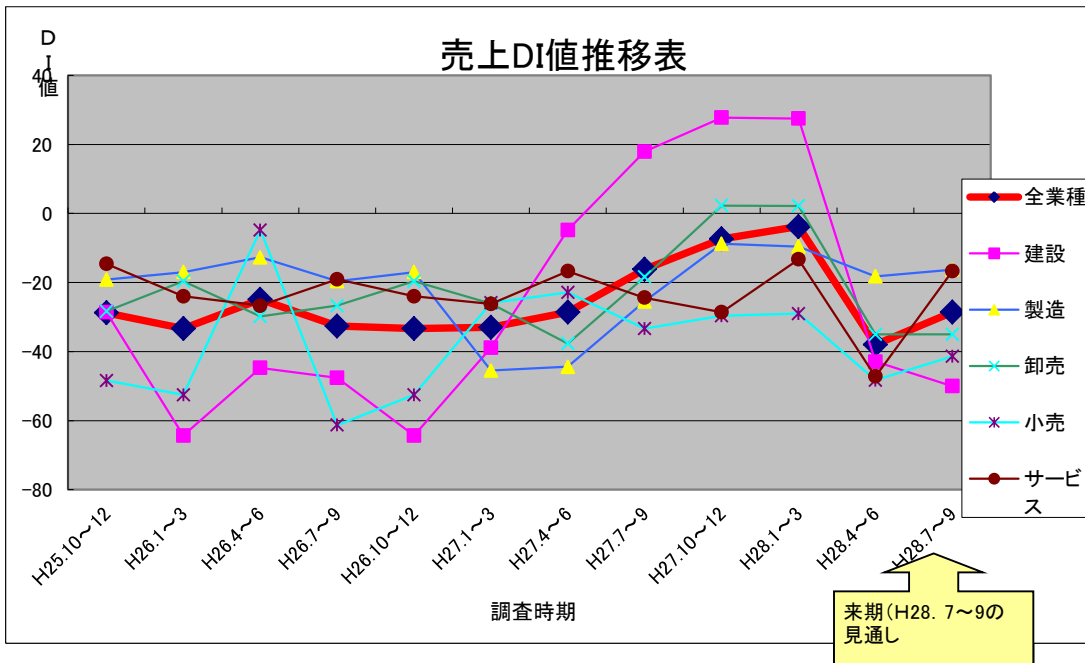
## <DI値とは>

DI(ディーアイ。Diffusion Index:景気動向指数の略)値は、売上・採算・業況などの各項目についての、ヒアリング対象の判断の状況を表す数値。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答(「増加」や「好転」など)の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答(「減少」や「悪化」など)が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)

## <平成28年4月～6月期調査分回収結果>

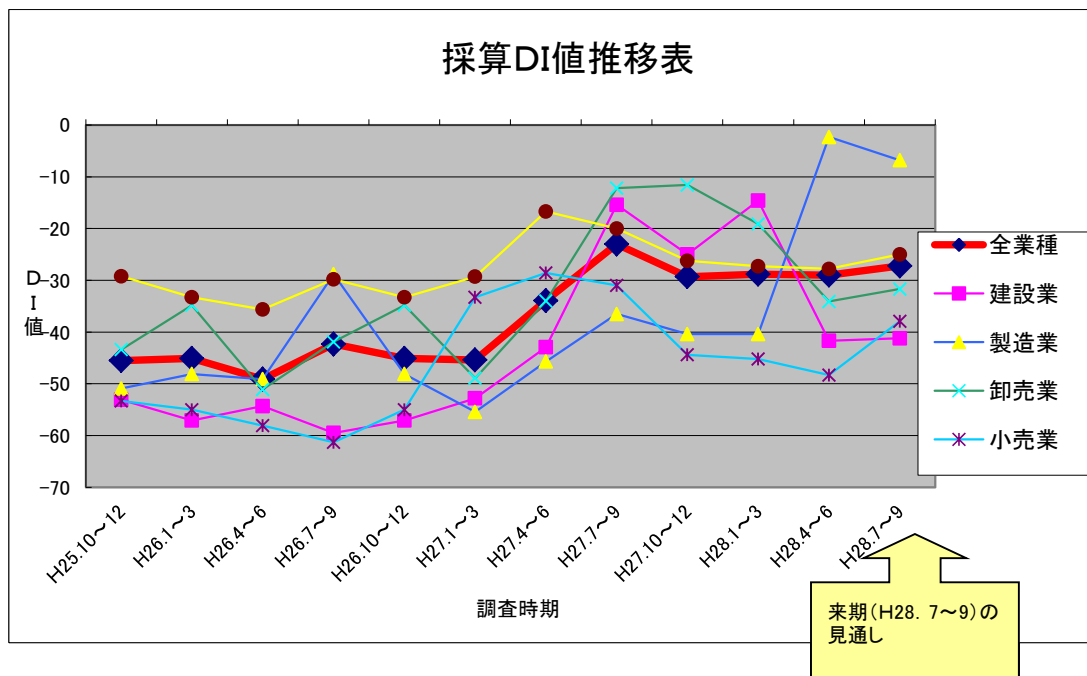
業種	対象事業所数	回答数	回答率
全業種	600	169	28.2%
建設業	120	35	29.2%
製造業	120	44	36.7%
卸売業	120	41	34.2%
小売業	120	29	24.2%
サービス業	120	36	30.0%



今期(H28.4~6)の久留米市地場企業景況調査で「売上面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は31社(前期比8社減)、「減少した」と回答した企業は101社(前期比19社増)、「横ばいである」と答えた企業は52社(前期比5社増)であった。DI値を見ると、▲38.0となり、前期比で12.4P悪化した。

業種別に見ると、建設業▲42.9(前期比70.4P悪化)、製造業▲18.2(前期比6.8P悪化)、卸売業▲35.0(前期比19.6P悪化)、小売業▲48.3(前期比2.1P悪化)、サービス業▲47.2(前期比32.0P悪化)となった。

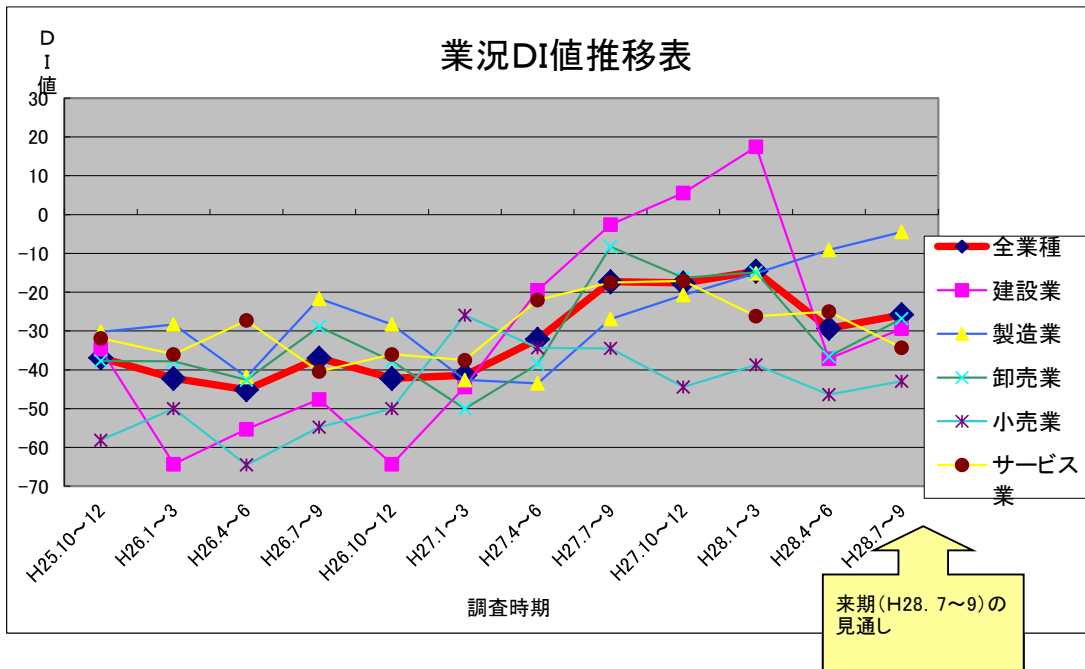
来期(H28.7~9)の見通しでは全業種DI値は▲28.6と9.4P好転する見込み。



今期(H28.4~6)の久留米市地場企業景況調査で「採算面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は27社(前期比5社増)、「悪化した」と回答した企業は81社(前期比22社増)、「横ばいである」と答えた企業は78社(前期6社減)であった。DI値を見ると▲29.0となり、前期比で6.6P悪化した。

業種別に見ると、建設業▲41.7(前期比9.6P悪化)、製造業▲2.3(前期比13.1P好転)、卸売業▲34.1(前期比16.6P悪化)、小売業▲48.3(前期比2.1P悪化)、サービス業▲27.8(前期比18.4P悪化)となった。

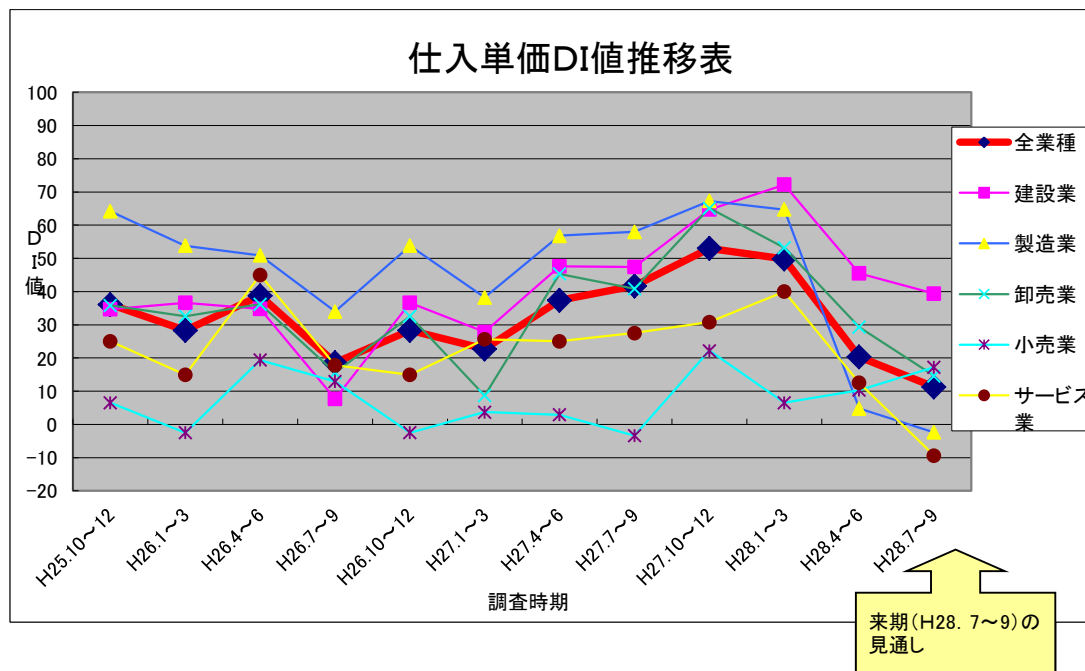
来期(H28.7~9)の見通しでは全業種DI値は▲27.2と1.8P好転する見込み。



今期(H28.4~6)の久留米市地場企業景況調査で「業況面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は22社(前期比3社増)、「悪化した」と回答した企業は76社(前期比13社増)、「横ばいである」と答えた企業は86社(前期比1社増)であった。DI値を見ると▲29.3となり、前期比で3.0P悪化した。

業種別に見ると、建設業▲37.1(前期比10.4P悪化)、製造業▲9.1(前期比14.0P好転)、卸売業▲36.6(前期比6.6P悪化)、小売業▲46.4(前期比4.1P悪化)、サービス業▲25.0(前期比12.5P悪化)となった。

来期(H28.7~9)の見通しでは全業種DI値は▲25.8と3.5P好転の見込み。

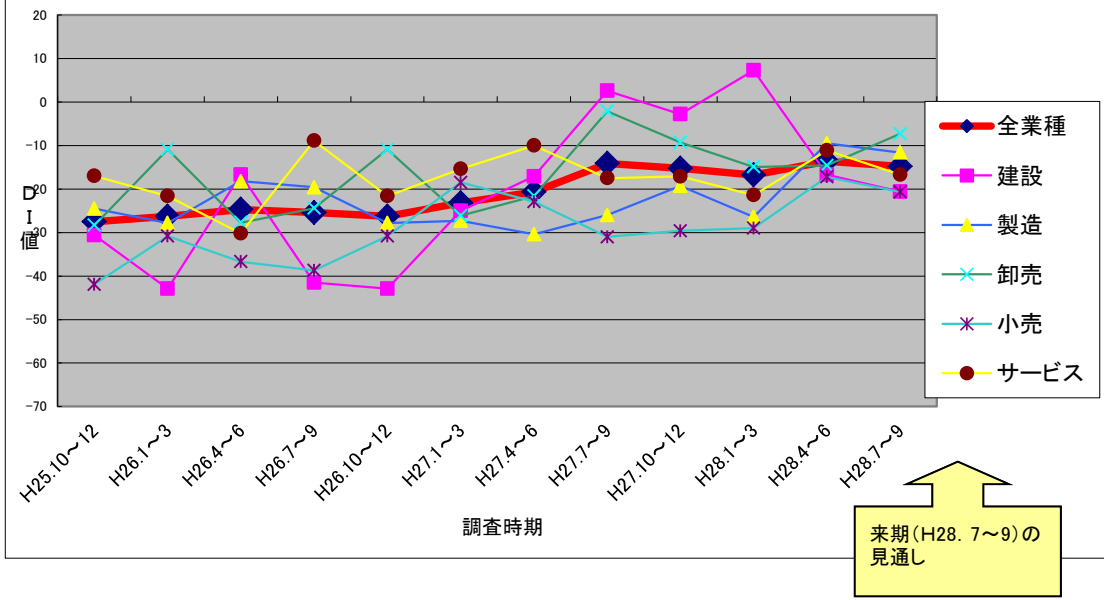


今期(H28.4~6)の久留米市地場企業景況調査で「仕入単価面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「上昇した」と回答した企業は54社(前期比2社減)、「低下した」と回答した企業は18社(前期比1社減)、「横ばいである」と答えた企業は105社(前期比16社増)であった。DI値を見ると、20.3となり、前期比で2.3P低下した。

業種別に見ると、建設業45.5(前期比4.5P低下)、製造業4.8(前期比8.0P低下)、卸売業29.3(前期比0.7P低下)、小売業10.3(前期比1.2P低下)、サービス業12.5(前期比2.8P上昇)となった。

来期(H28.7~9)の見通しでは全業種DI値は11.3と9.0P低下する見込み。

### 資金繰りDI値推移表

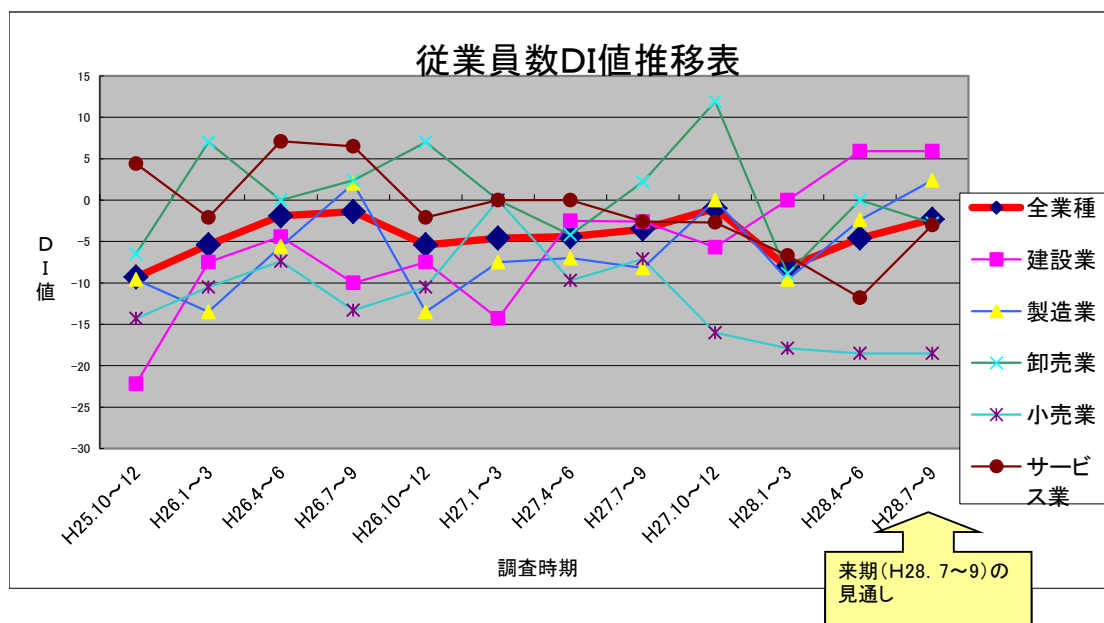


今期(H28.4~6)の久留米市地場企業景況調査で「資金繰り面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は14社(前期比不変)、「悪化した」と回答した企業は39社(前期比7社増)、「横ばいである」と答えた企業は131社(前期比11社増)であった。DI値を見ると▲13.6となり、前期比で2.8P悪化した。

業種別に見ると、建設業▲16.7(前期比6.7P悪化)、製造業▲9.5(前期比0.8P好転)、卸売業▲14.6(前期比0.4P悪化)、小売業▲17.2(前期比10.8悪化)、サービス業11.1(前期比4.8P悪化)となった。

来期(H28.7~9)の見通しでは全業種DI値は▲14.8と1.2P悪化する見込み。

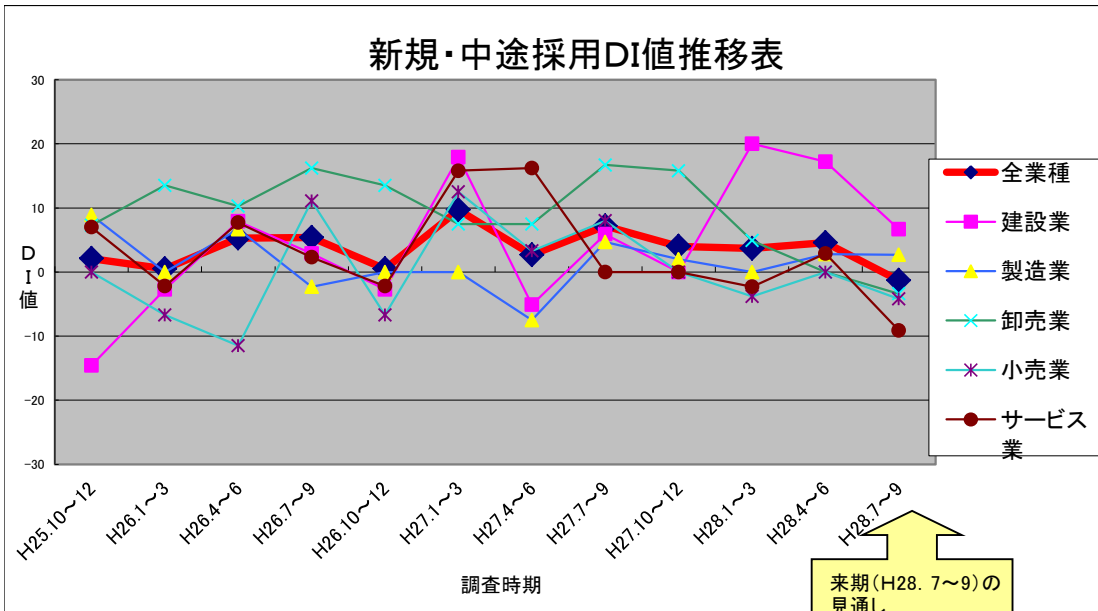
### 従業員数DI値推移表



今期(H28.4~6)の久留米市地場企業景況調査で「従業員数面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は26社、「減少した」と回答した企業は34社、「横ばいである」と答えた企業は113社であった。DI値は▲4.6となった。

業種別に見ると、建設業▲5.9、製造業▲5.0、卸売業0.0、小売業▲18.5、サービス業▲11.8となった。

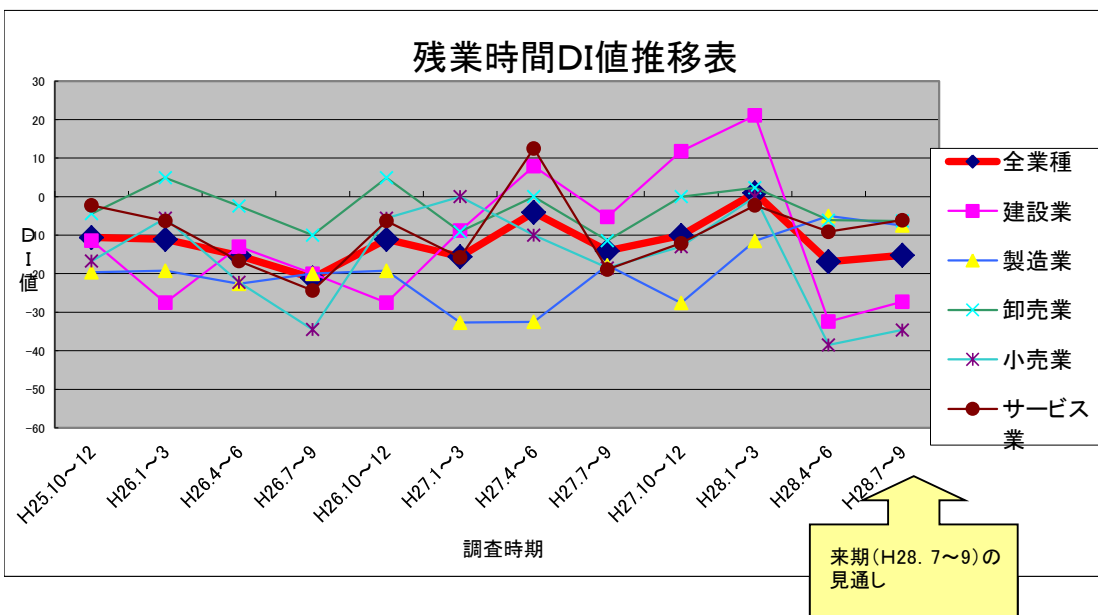
来期(H28.7~9)の見通しでは、全業種DI値は▲2.3となる見込み。業種別に見ると、建設業5.9、製造業2.4、卸売業▲2.8、小売業▲18.5、サービス業▲3.0となる見込み。



今期(H28. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で「新規・中途採用面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は21社、「減少した」と回答した企業は14社、「横ばいである」と答えた企業は118社であった。DI値は4.6となった。

業種別に見ると、建設業17.2、製造業2.8、卸売業0.0、小売業0.0、サービス業2.9となった。

来期(H28. 7~9)の見通しでは、全業種DI値は▲2.3となる見込み。業種別に見ると、建設業6.7、製造業2.7、卸売業▲3.4、小売業▲4.2、サービス業▲9.1となる見込み。

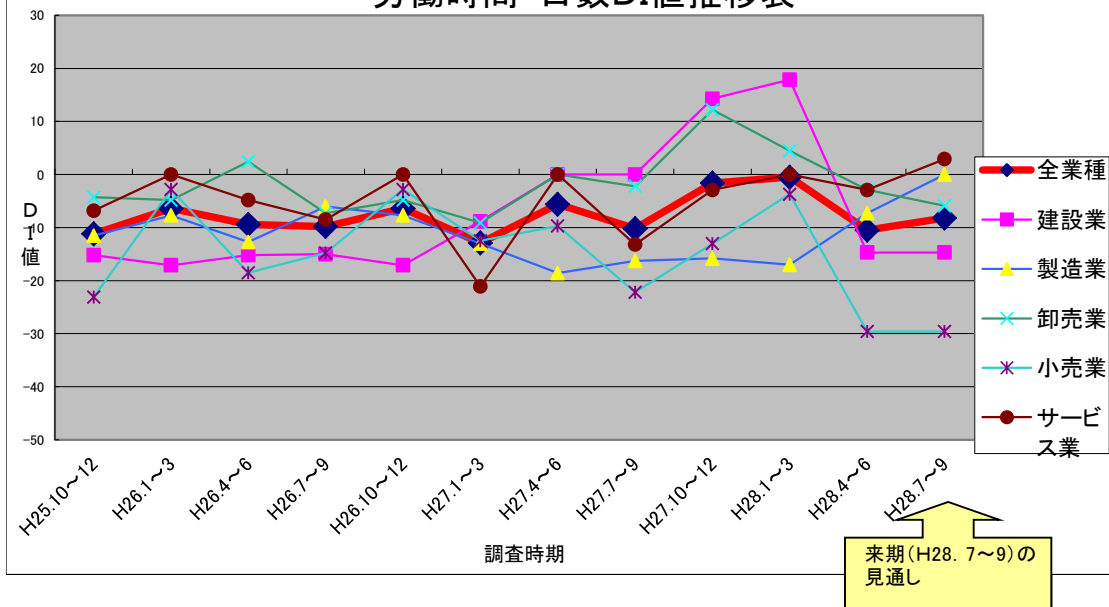


今期(H28. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で「残業時間面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は12社、「減少した」と回答した企業は40社、「横ばいである」と答えた企業は114社であった。DI値は▲16.9となった。

業種別に見ると、建設業▲32.4、製造業▲5.0、卸売業▲6.1、小売業▲38.5、サービス業▲9.1となった。

来期(H28. 7~9)の見通しでは、全業種DI値は▲15.2となる見込み。業種別に見ると、建設業▲27.3、製造業▲7.5、卸売業▲6.3、小売業▲34.6、サービス業▲6.1となる見込み。

### 労働時間・日数DI値推移表

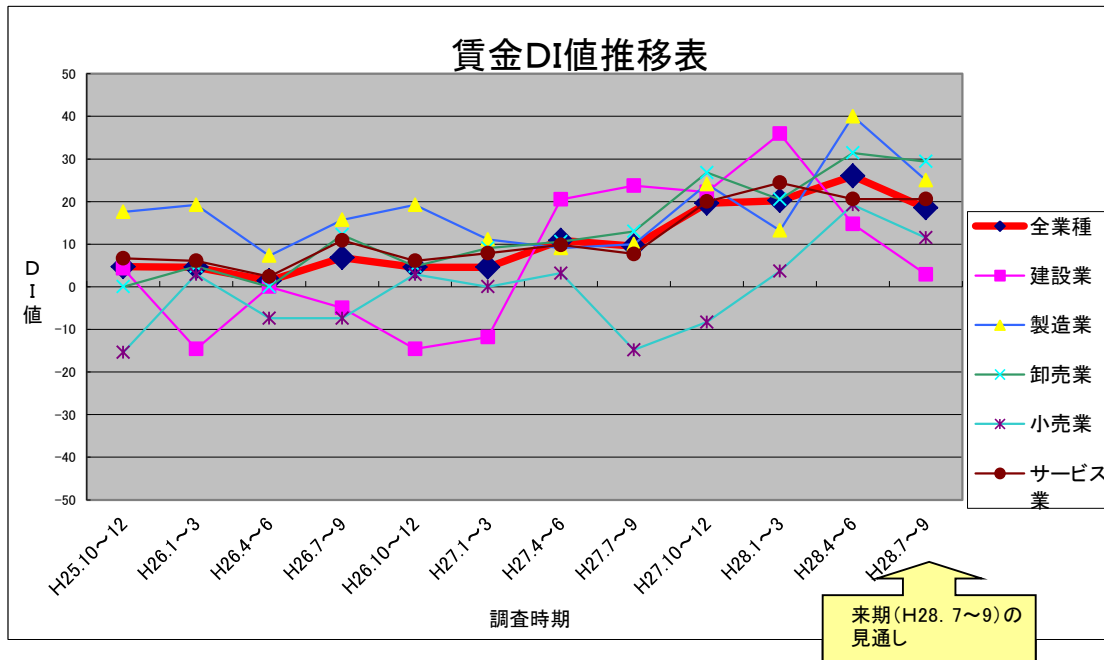


今期(H28.4~6)の久留米市地場企業景況調査で「労働時間・日数面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は4社、「減少した」と回答した企業は22社、「横ばいである」と答えた企業は145社であった。DI値は▲10.5となった。

業種別に見ると、建設業▲14.7、製造業▲7.3、卸売業▲2.9、小売業▲29.6、サービス業▲2.9となった。

来期(H28.7~9)の見通しでは、全業種DI値は▲8.2となる見込み。業種別に見ると、建設業▲14.7、製造業0.0、卸売業▲5.9、小売業▲29.6、サービス業2.9となる見込み。

### 賃金DI値推移表

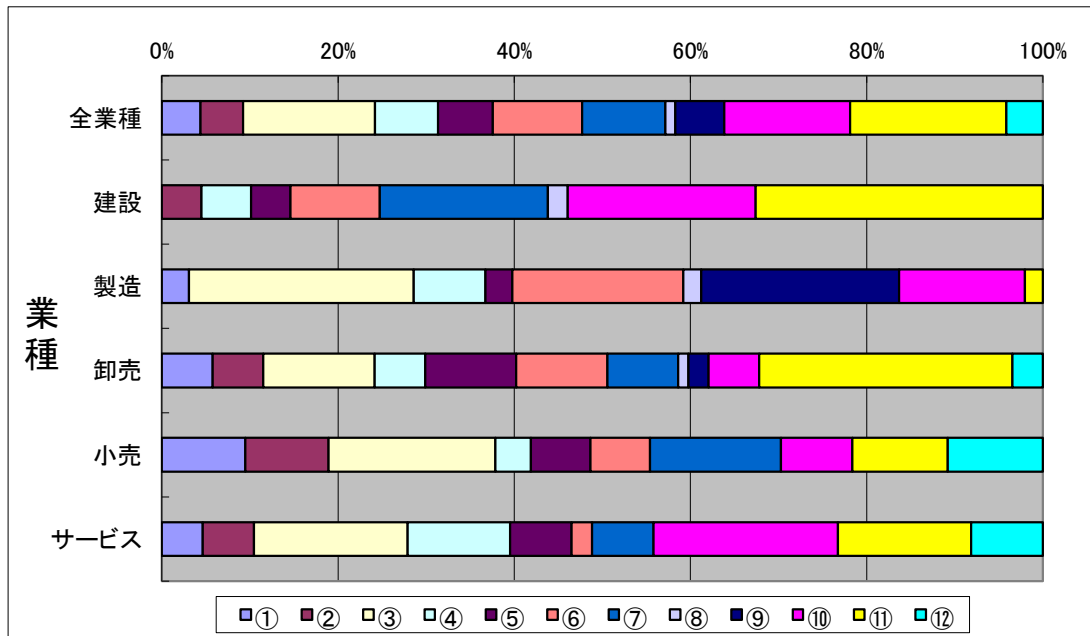


今期(H28.4~6)の久留米市地場企業景況調査で「賃金面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は53社、「減少した」と回答した企業は9社、「横ばいである」と答えた企業は107社であった。DI値は26.0となった。

業種別のDI値では、建設業14.7、製造業40.0、卸売業31.4、小売業19.2、サービス業20.6となった。

来期(H28.7~9)の見通しでは、全業種DI値は18.5となる見込み。業種別に見ると、建設業2.9、製造業25.0、卸売業29.4、小売業11.5、サービス業20.6となる見込み。

## 経営上の問題点



①大企業の進出による競争の激化 ②同業者の進出 ③消費者ニーズへの対応 ④人件費の増加 ⑤人件費以外の経費の増加 ⑥仕入単価の上昇 ⑦販売価格の低下 ⑧金利負担の増加 ⑨事業資金の借入難 ⑩従業員の確保難 ⑪需要の停滞 ⑫その他

今期(H28. 4~6)の経営上の悩みとしては、「需要の停滞(24. 8%)」「従業員の確保難(14. 7%)」「消費者ニーズへの対応(11. 8%)」を指摘する声が多く寄せられている。

「需要の停滞」の各業種の内訳は建設業(32. 6%)、製造業(14. 3%)、卸売業(28. 7%)、小売業(10. 5%)サービス業(15. 1%)。

## <事業所から寄せられた主なコメント>

### 【建設業】

4~6月の受注高は前期と同じく減少した。(塗装工事業)

ハローワークへ募集を出しているが、反応がなく、今後の職人採用、育成計画が最優先課題である。(一般土木建築業)

### 【製造業】

工場が老朽化している(自動車一般整備業)

生産原価が上がっているが、価格転嫁は難しい(生活雑貨製品製造業)

職人の施工スキル向上のサポートに取り組んでいるが、成果が出づらい(表面処理鋼材製造業)

熟練職人の知恵と技を次世代へ、如何に承継していくかが課題(金属加工機械製造業)

### 【卸売業】

市場が縮小し、納入価格も低下しており経営環境は厳しい。(他に分類されない卸売業)

医薬品の薬価は減少しているが、メーカー仕入れは上昇しており収益を圧迫している。(医薬品・化粧品等卸売業)

### 【小売業】

接客サービスにおいて、常に顧客満足度の高い店舗づくりを心掛けている。(他に分類されない小売業)

慢性的な業界の構造不況を感じる(スポーツ用品・玩具・娯楽用品・楽器等小売業)

### 【サービス業】

熊本震災の影響により需要が停滞している(旅行斡旋業)

需要はあるが、人員不足により受注が難しい。(警備業)

シティプラザ開業から3ヶ月過ぎ、見込まれる来街者に対応した経営計画を検討(他に分類されない小売業)